

W1762×H1112 案内板⑦ 縄文から奈良時代の喜連

縄文時代から奈良時代の喜連

息長河は絶えてしまふことがあつても
あなたに語りたい言葉が尽きることはありません
(万葉集4458馬史国人)

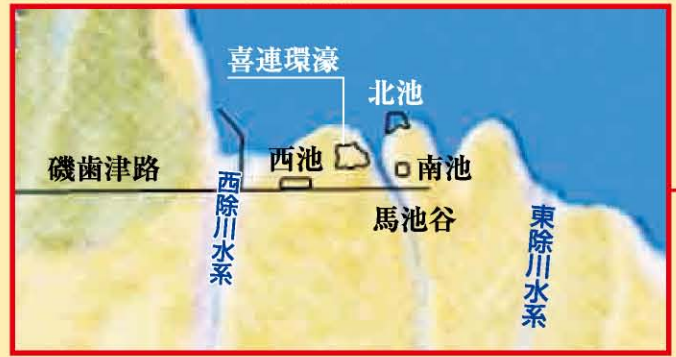
鳥島の息長河は絶えぬとも
君に語りむ言尽きぬやも

この歌には「河内国伎人郷の馬国人が家に宴する歌三首」との詞書があり、
伎人郷の住人馬史国人は、下図に示す満々と水をたたえた喜連の水郷風景を詠んでいる。
756年孝謙天皇一行の難波宮行幸の折のことで、御幸路(天皇が通った道)の字名も残っている。
鳥島はカイツブリ。ここでは息長(河)の枕詞である。
下図は字名(古地名)や江戸時代村絵図、昭和6年陸測地図、同17年航空写真を基に推定。
例えば字「浪打」はすべて水面と陸地の境界線である。※脚注参照
万葉集に詠まれた息長河は、狭義には馬池谷水系を西除川水系につなぐため、後の喜連環濠
集落や中高野街道の乗る微高地を切り通した人工河川。広義にはこうして開かれた〈喜連－
難波宮〉の水運流通路で、玉造江に注いでいた。息長河開削は馬池谷が洪水で埋まり、①船が
航行できなくなったかつての伎人郷入江に替わる河港の確保、②土石流で生じた自然堤防
(後の喜連環濠)上への居住地の建設、③馬池谷が埋まって新しく出来た土地の開発の三重の
目的で、伎人堤築堤と一体でなされた古代の大規模インフラ整備と考えられる。

縄文時代(5500年前) — 喜連は海岸線
温暖な縄文時代は海面が現在より高く、縄文海進で現大阪市では上町台地
と河内台地北端だけが陸地だった。喜連の横長地形は海岸線だったことを
伝える。喜連西部の今川近くは西除川水系の注ぐ海だった。発掘調査でタコ
壺が出土している。

古墳時代(4～6世紀) — 磯津津路と準構造船
磯津津路は、古墳時代の雄略天皇期に住吉と喜連を結んだ古代官道。
長居公園道路沿いと推定されている。
この頃まで馬池谷は伎人郷入江であり、朝鮮半島と往来できた準構造船が
発掘されている。

近世喜連環濠との位置関係



※この図では水面に書かれている沼やウトをはじめ、ゴシック表記の浪打、カモメ、ツクダ(漬く田)などはみな、実際には田畑に伝えられてきた字名である。
地名からかなり正確に古代の陸地と水面を復元することができる。馬池谷筋の池の内～川の前～(平野領流町～背戸口～白鷺～杭全)も同様である。